



プレスリリース

2009・10・29

2009 殿堂者（殿堂入り）

2009 歴史車 2009～2010 殿堂イヤー賞

NPO 法人 日本自動車殿堂 会長 小口 泰平
〒165-0026 東京都中野区新井 3-4-5
Tel&Fax : 03-3385-0223
E-mail : oguchi@jahfa.jp 携帯 : 090-2437-7701
<http://www.jahfa.jp>

1. 2009 日本自動車殿堂 殿堂者（殿堂入り）

久保 富夫 <空力特性と基本重視の高性能車を開発>

我が国の航空機開発によって培った高度な技術力と豊かな創造力そして統率力により自動車の研究開発を一体化し、空力特性と基本重視の高性能車を開発、自動車産業の発展に多大なる貢献をされました。その偉業を顕彰し永く伝承して参ります。

古浜 庄一 <水素自動車エンジン研究・開発の道を拓く>

水素自動車エンジンの研究開発の道を拓き、基本技術の体系化と実用化を目指して水素エンジン自動車の開発に挑戦し、そのDNAは研究室や卒業生に引き継がれ実用運行を実現、自動車の学術の発展と教育に多大なる貢献をされました。その偉業を顕彰し永く伝承して参ります。

齋藤 孟 <自動車の環境・エネルギー研究の先導者>

自動車用エンジンの研究開発の先導者として燃焼および排気に関する解明に取り組み、低公害エンジンや排出ガス対策などとともに環境およびエネルギーの在り方を導き、自動車の学術と文化の発展に多大なる貢献をされました。その偉業を顕彰し永く伝承して参ります。

内海 倫 <戦後の交通警察発展の司令塔>

戦後の交通警察発展の司令塔として先見の論理的思考と行政秩序感覚を駆使し、今日に繋がる近代的な道路交通法制定に尽力し、交通の円滑化と安全を推進、自動車とその交通の発展に多大なる貢献をされました。その偉業を顕彰し永く伝承して参ります。

大橋 孝至 <マツダRE車によるル・マン24時間レース制覇>

自動車レースへの限り無い情熱をもってル・マン24時間レースに18年に亘って挑戦し、マツダロータリーエンジン車によって日本車初の総合優勝を成し遂げ、モータースポーツ文化の発展に多大なる貢献をされました。その偉業を顕彰し永く伝承して参ります。

2. 2009 日本自動車殿堂 歴史車 <HISTORIC CAR OF JAPAN>

ホンダ・スーパーカブ (1958年)

世界のロングセラー二輪車として15カ国で生産、延べ160カ国以上の国々で愛用され、生産台数6000万台を記録している、実用性と操縦性と信頼性かつ廉価な魅力的な乗り物として今日もお普及し進化し続けている類稀なる歴史に残る名車です。

3. 2009～2010 日本自動車殿堂 イヤー賞

2009～2010 日本自動車殿堂カーオブザイヤー (国産乗用車)

ホンダ インサイト

1. 大胆な低価格戦略のハイブリッド車
 2. 環境性能と走行性能の高次元バランス
 3. 高速性と経済性を両立した IMA 技術
-

2009～2010 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー (輸入乗用車)

フォルクスワーゲン ゴルフ

1. 走行性能と快適性の高度なバランス
 2. 小型化パワーユニットによる低燃費・高出力
 3. コンパクトカーとしての着実な進化
-

2009～2010 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー (国産・輸入乗用車)

トヨタ プリウス

1. ハイブリッド車イメージのスタイルリーダー
 2. 室内スペースの確保と優れた空力特性の実現
 3. 審美性と経済性の巧みなバランス
-

2009～2010 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー (国産・輸入乗用車)

三菱 i-MiEV 車両統合制御 MiEV OS

1. 量産型電気自動車の統合制御技術
 2. リチウムイオン電池搭載の 3WAY 充電システム
 3. 小型軽量・高効率なモーターの開発
-

以上

参考資料 1

I. 2009～2010 日本自動車殿堂イヤー賞投票結果（各賞ベスト3）

2009～2010 日本自動車殿堂カーオブザイヤー (MAX : 1200 点)

1位	ホンダ	インサイト	1127点
2位	トヨタ	プリウス	1081点
3位	三菱	i-MiEV	883点

2009～2010 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー (MAX : 1200 点)

1位	Volkswagen	GOLF	806点
2位	Jaguar	XJ	713点
3位	Volkswagen	SCIROCCO	679点

2009～2010 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー (MAX : 700 点)

1位	トヨタ	プリウス	632点
2位	ホンダ	インサイト	569点
3位	マツダ	アクセラ	532点

2009～2010 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー (MAX : 900 点)

1位	三菱	i-MiEV	
		車両統合制御 MiEV OS	771点
2位	トヨタ	プリウス	
		ハイブリッドシステム	764点
3位	ホンダ	インサイト	
		IMA (インテグレートッドモーターアシスト)	753点

参考資料 2

I. 日本自動車殿堂・殿堂者（殿堂入り）の選考基準

選考は、「自動車社会構築の功労者」を主題とし、次の項目のいずれかを満たす方とする。（研究・選考会議において選出、理事会において決定）

- (1) 技術分野：日本の自動車技術開発に尽力された方
- (2) 産業分野：日本の自動車及び自動車産業の基盤を開拓された方

- (3) 学術分野：日本の自動車工学・学術に貢献された方
- (4) 社会分野：日本の自動車社会（自動車交通・道路・行政・安全環境活動など）および自動車文化（スポーツ・アートなど）の発展に貢献された方

II. 日本自動車殿堂・歴史車の選考基準

選定は、日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車とする。（研究・選考会議において選定）

III. 日本自動車殿堂・イヤー賞の選考要領（抜粋）

1. イヤー賞の種類

当該年度の最も優れた乗用車およびその開発グループを表彰する。

- (1) 2009～2010 日本自動車殿堂カーオブザイヤー
- (2) 2009～2010 日本自動車殿堂インポートカーオブザイヤー
- (3) 2009～2010 日本自動車殿堂カーデザインオブザイヤー
- (4) 2009～2010 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー

2. 年次の選考対象期間

前年度の東京モーターショー・プレスデーないしはそれに相当する日から 1 年間を対象期間とする。

3. 選考方法

- (1) イヤー賞は、選考の客観化と定量化そして高質化を目指し事前に各賞の選考委員集団の評価特性を位置付ける。すなわち、評価を行う側の委員の評価特性を「実用利便性」「経済性」「先進性」「安全性」「環境性」「審美性」などの項目により計量・解析し、レーダーチャートによって提示する。
- (2) 各賞の選考は、選考委員の投票によって行う。
- (3) 選考委員は、自動車研究に係る大学教授や研究開発機関の研究者等とし、4 賞に延べ 40 名があたる。
- (4) 選考の投票には、総合評価および階層分析法（Analytic Hierarchy Process）を組み合わせた選考準備委員会が構築した方式（データの正規化などによる評価の客観化・定量化）を用いる。

以上